

太田市自分ごと化会議2025（第4回） 詳細議事録

- 日時: 令和8年1月31日(土) 9:00~12:00
 - 場所: 太田市役所3階 大会議室
 - 参加者: 無作為抽出市民:10名(欠席13名)
 - コーディネーター: 北海道清水町 町民生活課 参事 前田 真
 - 市関係部局: こども課
-

1. 会議の流れの説明

- コーディネーター
 - 提案書の素案を配布した。この提案書はこれまでの議論を基に作成したもの。皆さんの意見が盛り込まれているか確認していただきたい。
 - 皆さんがこれまでの会議で出した意見を3つの提案の形にまとめ、提案の内容について話し合うツールとして「いどばたマニフェスト」を用意した。
- 合同会社多元現実スタッフ
 - 「いどばたマニフェスト」はAIを用いて、意見の壁打ちを行いながら、提案書の修正に関する意見を送ることができるもの。
 - 皆さんからいただいた提案は、コーディネーターの手元に集約された後、提案書に取り入れられる。

2. 議論

- コーディネーター
 - 提案書について簡単に説明。
(資料「提案書(素案)」を参照)
- 提案1について
- 参加委員
 - 考えがコンパクトにまとめられている。意見があるとすれば、「質の高いサービス」という表現が漠然としていると思う。必要な時に小児科にかかれないという声を保護者の方から聞くので、その内容を盛り込んでほしい。

- 自分が学生のころ、すでに給食費は無償化していたが、質が低いと感じたことは無かった。それであれば、無償化したまま、みんな一律に同じものを食べる方が良いと思う。
- 「医療の受診」について、親からすると、子どもの症状が軽症なのか、重症なのかが分からないので、その判断を助けてくれるチャットやツールがあるといいと思う。他にも、保育園から「治癒証明書」を要求される場合がある。もう治っているのに、受診しなければならないことに申し訳なさを感じるので、何か解決策があればいいと思う。

■ 提案2について

● 参加委員

- 「駄菓子屋」という発想について、子どもの頃、地域の子たちと遊ぶことがあまりなく、気軽に遊べる場所が欲しいと思っていた。そして、そのような場は、駄菓子屋や学童であると考えた。中でも、駄菓子屋であれば年齢問わず色々な人が来る。そのような場所があれば、人脈を広げ、仲良くなれると思う。駄菓子屋はみんな寄りやすい、ほのぼのとした雰囲気がある。
- 「児童館に大人も利用できるカフェを開設する」という意見について、ナビゲーターの馬場さんの話を聞き、話にあったような施設を作りたいと考えた。既設の児童館にカフェを併設すれば、費用も削減しながら施設を作れると思い提案した。
- 「お年寄りを募って家事を手伝ったり、子どもの世話をしてもらったりする仕組みを作る」という意見について、農家のお年寄りが質のいい野菜を作り、若者が料理を担当して、子どもに気を配るというやり方が良くないと思ひ提案した。料理を通じて、世代間で文化を継承していければいい。
- 「公園や施設にスマホの充電や医療用機械などが使える電源を整備する」という意見について、障がいのある子どもがいて、こまめな痰の吸引が必要。吸引機の電池が1時間程度しか持たないので、10kgほどの蓄電池も持ち歩いている。短時間でも充電できる場所があるとありがたい。

■ 提案3について

● 参加委員

- 「自分から情報を得るためのアンテナを張る、興味を持って調べる」という意見について、自分が本当に必要とするなら、スマホで調べたり、役所で話を聞いたりする。自分が支援を受けられないことを他責思考で捉えるのではなく、自分にも責任があると思った方が良くないと思ひ提案した。
- 「得た有益な情報をママ友・パパ友にシェアする」という意見について、「この病院はよく見てくれる」、「この病院は適当だよ」などの話を周りから聞くことがある。そんな話をする中で、補助金や市政に関するプラスな話もシェアできたら、より多くの人に広まると思ひ提案した。

- 「自治会や地域の集まりで、スマホを使った行政サービスの利用方法や情報収集の仕方を教え合い、情報格差を地域の中で解消する」という意見について、スマホを使えない世代が情報を貰えないのはかわいそうだと思います。スマホを持っていない友人との普段の会話でさえ(情報の)差があると思ったので、地域の方々に情報を共有し合えたらと思う。
- 「SNSを活用し、対象年齢や属性に合わせたピンポイントな情報発信を行う」という意見について、発信される情報が多く、見過ごしてしまうことが多いため提案した。必要な時に必要な情報が届くことが一番だが、往々にしてタイムラグがある。身近なママ友・パパ友との情報のシェアなど、自分の範囲にある情報でないと取れる情報も取れないので、難しい問題だと思う。
- 祖母が非常に高齢で、ほぼ目が見えていない状態。紙で情報が届いても受け取れないという現状があるので、家族や地域の方たちが積極的に声掛け等を行っていくことが重要だと思う。

3. まとめ

● コーディネーター

- 最後に皆さんから一言ずついただきたい。

● 参加委員

- 自分が思っていることを言葉にすることが得意ではなかったが、会議を通じて上手く意見を伝えられるようになったので良かった。会議を経て、自分から情報を取りに行こうと思えた。
- こんなにも障がい児の話を取り上げてもらえるとは思わなかったので、嬉しかった。話し合いだけでなく、スマホで意見を整理する時間があったのが(冷静になれて)良かった。
- 自分は高校生で、同じく高校生の友達としか話す機会がない中で、色々な世代の人達と話ができたのは良かった。
- 様々な年代や立場の方と話し合うことで、自分の知見を広げる良い機会になった。この会議での学びを今後活かしていきたい。
- 自分の意見が反映された提案書が市長に提出されるということで、少しでも太田市の子育てが良くなればいいと思った。色々な世代の方が色々な視点から一つのことを考える貴重な機会だと思うので、今後より多くの人にこの会議の重要性を知り、参加してもらえれば、さらに良いアイデアが出てくるのではないかと思う。
- 自分は子育て世代ではないが、今後その世代になる身として、今回の提案書で出た意見をもとに、行動を起こしていきたいと思った。
- 通知が届くまでこの会議について知らなかったが、AIによって議論がまとめられていく様子や自分の仕事と関連した障がい福祉の分野の議論がとても参考になった。
- 自分はOBであるが、昨年よりも意見がまとまりやすく、議論もしやすかった。

- 自分は高校生で狭いコミュニティの中で過ごしていたが、この会議を通して大人の意見を取り入れられるようになった。今後、自ら探してこのような会議に参加できたらと思う。
- 「良かった」という意見が多いが、自分は嫌だなという憤りの気持ちが残った。

● コーディネーター

- 皆さんの感想に爽やかな意見だけでなく、「憤っている」という意見もあったように、世の中には様々な意見がある。そして、全員が同じ考えになることはありえないと思っている。最近、様々な意見が溢れた複雑化した社会を単純化しがちである。特に、「行政」が悪い、「市長」が悪い、予算をつけてくれない「財政」が悪いというように、悪者を決めて一斉にたたく風潮がある。
- 自分ごと化会議の醍醐味は「他者の主張に耳を傾ける」ということ。すべての会議で、皆さんは他の人の意見を丁寧に聞き、自分の意見を変化させたり、主張したりを繰り返してくれた。
- 皆さんの意見をすべて「提案書」に載せるとなると、複雑であるがゆえ、市はどのように施策を進めていけば良いか分からず混乱する。でも、できるだけ配慮しながらAIを使い分析をして提案書を作成したつもり。AIを使っただけの会議を進行することは、私にとって初めての試みであった。AIツールを作成した多元現実スタッフのコメントをお願いしたい。

● 合同会社多元現実スタッフ

- 今回、「発言と思っていることには間があるのではないか」と思い、スマホやディスプレイを利用した。話し合いに割り込むほどではない微妙なニュアンスをなるべく拾い上げたいと思い様々なツールを導入してきた。発話量と比べるとデジタルツールでの情報量の方が多いため、これらをなるべく反映したい。「倍速会議」の質問項目には、「本当に自分はこう思っているのか」と答えるのが難しい問いもあったかと思うが、これこそが民主主義を体現している。自分ごと化会議にデジタルツールを導入していくことは、チャレンジングであったが、太田市での経験をもとに、全国区に広げていきたい。

● コーディネーター

- こども課の職員にもお話ししたい。

● こども課職員

- 皆さんの話を聞いて、「そこが足りなかったのか」と思い知らされたと同時に、「やっているのに届いていない」という歯がゆい気持ちにもなった。本日、提案書の素案を見させてもらい、自分たちが今後力を入れていきたいと思っている事業とぴたっと当てはまっているところもあって、やりたいことが間違いでないという答え合わせができて嬉しかった。来年度の予算も決まってきたが、その中でも手掛けていきたいことが今日の会議で見えてきたので、色々なところと協議をしながら、皆さんの生の声を活かしていけたらと思う。

- **コーディネーター**

- 「自治」とは、自分たちで考えて、自分たちで決めて、自分たちで実行することを言う。そして、自治は一部の権力者ではなく、市民一人一人の思いが出发点となる。
- 行政の民間との大きな違いは、税を徴収できる権力を持っていること。皆が嫌だといっても一方的に徴収することができる。だからこそ、税金を使う際に、独断で進めることは許されない。税金を納める市民の声を聴き、市政に反映させることが市民自治の原則である。その実践の場こそ自分ごと化会議である。

4. アンケートの記入

5. 総括・事務連絡

- **事務局**

- 本日の意見を反映した最終的な提案書の原稿を、後日事務局より参加者へ郵送する。内容に齟齬がないか最終確認をお願いしたい。
- 3月下旬に市長への提案書手交式を行う。事務局から何名かの方にお声がけするので、ご協力いただきたい。